

事務事業名	市誌編さん事業		会計	一般会計	実施区分	継続	
			事業種別	政策	開始	終了	
H29作成課等名	歴史研究所	H29係等名	総務係	H28担当課等名	歴史研究所		
基本計画上の位置づけ	政策	6	地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり				
	施策	61	地域資源の発見・資産化				
目的	対象(誰・何を)	市民			指標名及び単位		28年度数値
	意図(どういう状態にするか)	飯田・下伊那の歴史を理解			飯田市の人口(人) (H28.10.1推計人口)		100957
	向上させたい上位施策の成果指標	活用できる状態が整った地域資産の数					
目標	種別	指標名及び単位			27年度計画	27年度実績	28年度計画
	成果指標	一般向け図書の配布販売数(単年度)―『飯田・上飯田の歴史』『みるよむ まなぶ…』『いとなむ はたらく…』『満州移民』『森本家』『満州紀行』『近世史料編』等			900	1169	600
	成果指標	子ども向け図書の配布販売数(単年度)―『水引のまち飯田』『飯田・下伊那の災害』(仮称)等			250	258	80
	定性目標						
事業概要	<p>1 リニア時代の到来を見据え、当地域の個性や地域アイデンティティーを形成する地域資源を資産化し継承</p> <p>2 地域の歴史が消え、または大きく姿を変えてしまう事態にあり、そのような場合にも、確かですっきりした過去を見つめ直すことができるものとして、刊行事業を継続</p> <p>3 自分たちの地域を知り、地域を大切に思う心の醸成を目的に、本の刊行で終わらない多面的で永続的な調査・研究の集約の場として位置づけ、地域史料集(『飯田・下伊那史料叢書』)と単位地域史叙述の二つを柱とする出版に取り組み、地域の歴史を深める活動として継続</p> <p>・『飯田・下伊那史料叢書』 ①基礎史料(「地域史料」に包摂できないもの) ②地域史料</p> <p>・単位地域史叙述 ①単位地域の全体史 ②テーマ史 ③飯田市一帯の概説書</p>						
28年度事業内容	事業内容			名称		活動指標	
	かけがえのない飯田市の歴史を継承し、市民への還元を図るために、多面的で永続的な市誌編さんの継承と、要望の多い出版物を刊行 1 宮下功「満州紀行」の刊行 2 『熊谷家伝記』(飯田・下伊那史料叢書 近世史料編3)の作成 29年度へ繰越			1 出版部数		1 500部	
事業コスト		27年度決算額	28年度予算額	28年度決算額	29年度繰越額	特定財源内訳、補足	
事業費計(千円)①		4,694	1,851	989	860	(そ) 諸収入	
国庫支出金						28→29 繰越明許費 860千円	
県支出金							
起債							
その他		493	600	483			
一般財源		4,201	1,251	506	860		
人件費計(千円)②		6,437	0	3,576	0		
正規職員所要時間		1,800		1,000			
臨時職員所要時間							
総事業費①+②		11,131	1,851	4,565	860		
事業内容・目標達成状況の振り返り		『宮下功「満洲紀行」』を刊行した。これまで知られていなかった部分の資料となり、市民による歴史研究や学習に役立つものである。市民への普及のため、『飯田・上飯田の歴史』関連の地域史講座を開催し、市民の自己学習の展開につなげた。					
改革改善の考え方	①問題点	『飯田・上飯田の歴史』を刊行したことで、市誌編さん事業が終了する印象がある。					
	②改革提案	・刊行物の継続的な出版と教育事業を通じて広く市民に還元することにより、地域の歴史に対する関心をより高める。 ・当地の歴史を次世代の担い手である子どもたちに伝えるため、小中学生・高校生向けのジュニアライブラリーを刊行。					